



発明のプロセスを依頼主とたどる 技術や発想への感動を明細書に

弁理士
くろせ やすゆき
黒瀬 泰之 氏
(江東支部)

そらおと国際特許事務所
江東区亀戸2-34-8ウインド亀戸ビル5F
TEL: 03-5875-5912
Eメール:
趣味: 音楽 (ミュージカル鑑賞)

「有名なミュージカルに『アラジンの魔法使い』があります。ランプの妖精ジーナがなんでも叶えてくれる夢のある話。もし私の目の前にジーナが現れたら、宇宙の真理を教えてください！つてお願いしちゃいますね。発明はひとつひとつが宇宙であり、真理なんです」とユーモアと本気さがよい塩梅で合わさった眼差しをくれる黒瀬泰之氏（弁理士）。高校時代、黒瀬氏は宇宙物理学者への道、法律家への道、音楽への道を夢見た。ミュージカルが好き、歌うことが大好きという黒瀬氏。語り口に張りあり、芯あり、心地よい。

「宇宙物理学者を志した大学時代。宇宙に関心を抱いたのは中学生のころ叔父さんからもらった宇宙図鑑の影響。まだ見ぬ世界への純粋な憧れ、そして宇宙とは何か、どこから生まれたのか、人間ってナンダロウという疑問。いや好奇心が芽生えたのです」とほほ笑む。「残念ながら宇宙物理学者の夢は大学三年生時に手放しました。モノスゴク難しかったです。専攻を量子工学へと移し、大学院を卒業。大手通信会社のエンジニアとして就職をしました」。

「エンジニア時代は交換機の仕様決定やサービスの企画をすれども、実際に交換機やサーバーを作るのはメーカーであり、自分はメーカーに依頼する立場。インプットとアウトプットの間、プロセスがブラックボックスになっている

ように見えて、ムズムズ心がうずいていました」と振り返る。「ゼロから物事を作り上げる研究所への異動を願っていたのですが、叶わず。高校時代に法律家に関心があったこともあり、働きながら弁理士資格を目指すようになったのは自然なことだったと思います。そして受験三回目まで合格。就職後、六年九か月で辞表を提出しました」。その後、三か所の弁理士事務所まで修業し、二〇一八年独立を果たす。

「弁理士の仕事は天職です」と声がはずむ黒瀬氏。「発明者にはまず自由に話していただくことからスタート。どのような背景でその技術が生まれたのか、想いはどこにあるのかを伺います。さらに他の発明も見ながら道筋に心を配ると、出願のポイントがどこにあるのか輪郭が垣間見えてくる。ついにココは守りたいというポイントを捉えることができます。それから発明の用途や設計書を一緒に詰め、出願のための明細書を書き起こす作業へ」。「モヤモヤしたものが残らないようにするのが出願のプロセス。明鏡止水のごとく、発明のポイントは書面の請求項1に現れます。発明はひとつひとつが宇宙であり、真理。技術や発想に感動する気持ち。一方で第三者の目線で発明と技術を言語化するプロセス。当事務所は考えることを大切にしたい。はい、楽しいです」と目の奥がきらめいた。

(広報部 原田健也 鈴木啓文)